28P-am476Q

北海道薬科大学の喫煙防止教育　－喫煙者から非喫煙者への転向－

○田中　三栄子[1], 丹保　好子[1], 小松　健一[1], 野村　憲和[1], 早川　達[1], 伊藤　三佳[1], 野呂瀬　崇彦[1], 佐藤　重一[1]([1]北海道薬大)

【目的】北海道薬科大学では『薬剤師』を養成する医療系大学として、本学出身の薬剤師は全員非喫煙者であることを目指している。2003 年から「喫煙防止教育」をスタートし、2009 年度の入試から出願資格に「入学後、たばこを吸わないことを確約できる者」を明記した。このような取組みのなか、今回、喫煙に関するアンケート調査を実施した。現時点での入学生を含む在学生と教職員の喫煙者数を調べ、また、どれくらい非喫煙者に転向したのかについて検討した。

【方法】平成 21 年 10 月、本学の学生と教職員を対象にライフスタイルに関するアンケート調査を実施した。学生は、1 年生 227 名、2 年生 190 名、3 年生 211 名、4 年生 194 名、大学院生 31 名の合計 853 名であった。教職員は 56 名で、回収率は学生 86.2%、教職員 54.4%であった。

【結果・考察】本学の喫煙者・元喫煙者は、1 年生 12 名（留年生を含む)、2 年生 21 名、3 年 26 名、4 年生 38 名、大学院生 5 名の計 102 名で、教職員は 17 名であった。そのうち、過去に喫煙していて非喫煙者に転向した元喫煙者は、1 年生 9 名（75.0%)、2 年生 7 名（33.3%)、3 年 13 名（50.0%)、4 年生 15 名（39.5%)、大学院生 4 名(80.0%)であり、学生の転向率は 47.1%に対して、教職員の転向率は 76.5%であった。また、現時点での本学喫煙者率は、学生 6.3%、教職員 7.1%であり、わが国の喫煙率 21.8％（厚生労働省調査）を大きく下回った。医療系大学としての喫煙防止教育を開始した当初は、取組みに批判的で、自身の非喫煙に踏み出せない教職員も多く存在したが、6 年半にわたる活動の結果、喫煙教職員の約 4 分の 3 が非喫煙者に転じ、学生もかなりの高率で非喫煙に転向していた。残るタフな喫煙者へは禁煙支援室が介入する積極的な指導が必要であると思われる。